

# 三協化学工業

自動車の内装や家電のハウジング、そして食品容器に日用雑貨。私たちの生活には樹脂成形製品があふれ、魅力的なカラーリングで消費者の購買欲を刺激するものも増えている。昨年、会社設立50年の節目を迎えた大阪府柏原市の三協化学工業は、そんなクリエイティブな感性も求められる奥深いカラーリングの世界を極めようと技術の研鑽を続ける着色剤の専門メーカーとして着実に成長する有力企業である。

食品容器は電子レンジでの加熱を前提にしたコンビニ食材や冷凍食品の急増で、容器への高品位な色彩の付与とともに、これまで以上に高耐熱や高耐久が求められるようになってきた。同社は半世紀にわたり培った複合コンパウンド技術でこうした食品容器の高度な着色ニーズに応え続け、食品関連事業は売り上げ構

## 食品容器向けが成長

成比で45%を占めるまでに成長している。

もちろん、着色剤の供給先は食品用途にとどまらない。梅田倫宏社長は「物流コンテナやパレット、農業用フィルムなど取引先は幅広い。自動車や建材用途も増えており、顧客の業種拡大に対応して工場の整備にも力を入れて」と強調。今回のインタビューで新たな投資プロジェクトを披露してくれた。

今期までに大阪、関東の両工場の設備を高性能2軸押出機に更新し月1200ト体制(同400ト増)を整えている。「これに続き、関東工場でも春までに2軸押出機を1台増設し東日本での即納体制を強化する。また、製品開発において分析・評価を社内で行うための投資も計画している。今後も厳しい品質要求を満たすための設備や人材投資を行う」ときっぱり。経営理念の「必要とされる企業」を旗印に、

## 関東工場で押出機増設